

地歴公民科学習指導案

科目	授業学級	授業場所	使用教科書	授業者
日本史B	2年文系（普通科）39名 （男子16名，女子23名）	2年2組	詳説日本史B	二宮勇貴

1 単元名

第2章 律令国家の形成 第3節 「平城京の時代」

2 単元の目標

我が国において国家が形成され律令体制が確立する過程，隋・唐など東アジア世界との関係，古墳文化・天平文化に着目し，古代国家の形成と展開，文化の特色とその成立の背景について考察させる。

3 単元（題材）の評価規準

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	資料活用の技能	知識・理解
・律令国家期の社会や文化の特色について意欲的に追究している。	・律令国家の形成・確立について， <u>当時の東アジア世界の動向と関連づけながら，多面的・多角的に考察し，表現している。</u>	・律令国家が形成される頃の <u>地図を活用し，社会や国際関係の変化を読み取っている。</u>	・律令国家期の政治の展開や文化の特色について， <u>当時の東アジア世界と関連づけて理解し，その知識を身に付けている。</u>

4 単元の指導計画（全4時間）

第3節 平城京の時代

	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	資料活用の技能	知識・理解
8世紀の東アジアと日本（本時）		○	○	
藤原氏の進出と政界の動揺	○			○
民衆と土地政策			○	○

5 教材観

当時の日本は，東アジア情勢の大きな変化の中で，律令国家を確立させ，中央集権化が達成された時代である。天皇を中心とする国家体制が成立したことで，外交においても，これまでの中国を中心とする東アジアの国際秩序とは異なる，独自の外交関係の構築を目指す様子が顕著に見られるようになる時代である。日本史を学習する上で，東アジアとの関連性や，日本の外交姿勢の変化を通して通史的な古代史の内容の理解にもつながる単元である。

6 生徒観

普通科の文系選択者のクラスである。授業態度は概ね良好だが、受動的な態度の生徒が多く、自ら地図や資・史料、また既習事項等を用いて、歴史に対する考察を行うような生徒は少ないのが現状である。また、学習する上で、日本史全体を概観して理解することができていない生徒が多く、定期考査においても、人名や出来事そのものの知識を問う問題の正答率が高いが、出来事についての年代順の並び替えなどの問題は正答率が低い傾向がある。

7 指導観

上記の分析結果を踏まえ、地図や資・史料、これまでの既習事項を用いて、個別の時代に留まらない日本史の内容を概観しながら、考察させたり、考察した内容をまとめたりする授業を行う必要があると考えた。

本時は、導入時に大きな学習課題を与え、地図を中心とする資料をもとに、1時間を通して課題の考察を行いながら、古代史全体の大まかな内容の理解を深め、歴史を概観し、それを表現する技能を身につけることを目指した。

8 本時の実際

(1) 本時の目標

8世紀の日本が東アジア各国と、日本を中心とする独自の国際関係を築こうとしたことを、既習事項をもとにした資料や地図から、歴史的な背景を踏まえた上で考察し、その結果を適切に表現する。

【思考・判断・表現】

(2) 本時の評価基準

8世紀の日本が東アジア各国と、日本を中心とする独自の国際関係を築こうとしたことを、歴史的な背景を踏まえた上で考察し、適切に表現している。【思考・判断・表現】

(3) 本時の展開

	学習内容	学習活動	指導上の留意点 及び評価の観点	備考
導入 5分	<ul style="list-style-type: none"> 学習課題の設定 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>〈学習課題〉8世紀の日本は東アジアでどのような国際関係を築こうとしたと考えられるか。</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> 歴代中国王朝との関係を振り返り、それぞれの時代で日本と中国の関係が異なることに視点を当てる。 上記の点を踏まえて、学習課題を設定する。 	<ul style="list-style-type: none"> 前単元の既習事項（日本と東アジアの関係）と本時の学習課題を比較することによって、律令国家が形成される過程で日本の外交姿勢が転換していったことを強調する。 	
展開 I 15分	<ul style="list-style-type: none"> 日本と歴代中国王朝 	<ul style="list-style-type: none"> 弥生時代～飛鳥時代まで、それぞれの時代の日本と歴代中国王朝との関係を、資料や地図から考察し文章として表現する。 	<ul style="list-style-type: none"> 提示した地図・資料を活用したり、教科書等の記述を復習させたりしながら、日本と中国王朝の関わりを文章として表現させる。 	補助プリント(1)～(3)
	<ul style="list-style-type: none"> 日本と歴代中国王朝との関係の変化の過程 	<ul style="list-style-type: none"> 資料を見て、日本と歴代中国王朝との関係がどのように変化していったかについて考察し、グループで話し合った後、文章として表現する。 	<ul style="list-style-type: none"> 日本が中国に臣従する形式から徐々にそれとは異なる形式の外交を目指すように変化していていることに気付かせる。 	補助プリント問1
	<ul style="list-style-type: none"> 日本国内の変化 	<ul style="list-style-type: none"> 弥生時代から飛鳥時代にかけての日本国内の政治体制がどのように変化したかについて考察し、グループで話し合った後、文章として表現する。 	<ul style="list-style-type: none"> 地図から日本（ヤマト政権）の勢力の伸長を読み取らせ、中央集権体制の国家が形成されつつあることに気付かせる。 	補助プリント問2
展開 II 20分	<ul style="list-style-type: none"> 8世紀の日本と東アジア 	<ul style="list-style-type: none"> 展開Iと展開IIを通して、8世紀の日本は唐や新羅・渤海などどのような外交関係を構築しようとしたのか、考察し、話し合う。 話し合ったことを文章化し、各班の代表者が発表する。 	<ul style="list-style-type: none"> 細かい用語にはこだわらず、個々の意見を重要視するよう指導する。 発表の中で、重要な概念に触れた場合は教員が、板書等で補足する。 	補助プリント問3
終末 10分	<p>まとめ</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>〈まとめ〉8世紀の日本は、ヤマト政権による国内統一・中央集権化の結果、律令国家を確立し、中国を中心とする東アジアの秩序を離れ、日本を中心とする独自の外交関係の構築を目指した。</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> 他の生徒の発表を聞き、自己の意見と異なる部分を把握し、より良い表現に修正する。 	<ul style="list-style-type: none"> 8世紀の日本と東アジアの国際関係について発表させ、グループの意見を尊重しながら、修正すべき語句を指摘し、よりよい表現を目指す。 	

